

A 型せとうちサミット in 倉敷  
～A 型で働くすべての人が元気になる!～

はじめに

近年、障害者の就労支援の現場が大きく変化しています。課題は山積しているにしても障害者にとって、就労形態の多様化は大変喜ばしいことです。障害者雇用促進法の改正により平成 30 年 4 月以降法定雇用率が引き上げられ、精神障害者も適用になります。また障害者権利条約批准後の対応、そして働き方改革における障害者の役割を考えると、ますます就労継続支援 A 型事業は、一般就労が難しい方にとって労働者として働ける場所であり、たとえ重度の障害があろうとも「多様な働き方」を実現できる制度であり、さらに社会的弱者も含め、「働き甲斐のある人間らしい仕事」の保障をめざしていける制度であると考えています。そしてその果たす役割は大きいと考えています。

しかしながら、昨年より A 型事業所を経営する法人による事業所の閉鎖、それに伴う A 型利用者（障害者）の多量解雇が社会的問題に発展しています。その原因は元々障害者の就労支援をする資格のない貧困ビジネスが原因であると考えています。しかし、もっとも影響を受けたのは A 型利用者（障害者）の方です。本来、当事者の A 型利用者には、いきいきと働いて、地域で自立して生活していくこと、そして納税者になり社会に貢献し、何より労働者としてプライドをもって生き、充実した人生を送ることが大切なはずですが、しかし、この 1 年、行政関係者の困惑、A 型事業所関係者の憤り、特に A 型利用者の不安など、A 型事業の関係者を取り巻くどんよりとした萎縮した空気を感じます。必要な制度である A 型事業を社会的に再認識してもらうには、今こそ私たち関係者が、団結し、声を上げなければなりません。今回、当該集会を開催するにあたり、それらを払拭する契機になればと考えています。

開催にあたり、岡山県、倉敷市、山陽新聞社会事業団等の関係者の皆様のご協力をいただきました。また日本財団の助成をいただき開催できました。最後に協力いただいた瀬戸内海沿岸府県、大阪・兵庫・広島・山口・愛媛県、そして開催県の岡山県の A 型事業所の皆様に、あわせて篤く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月 18 日

NPO 法人就労継続支援 A 型事業所全国協議会

（全 A ネット）

理事長 久保寺一男